平成２９年度滋賀県立大学学部学位授与式　学長式辞

環濠の桜の蕾も膨らみ、春の訪れを告げる本日ここに、三日月大造滋賀県知事をはじめ、ご来賓の方々、また、関係各位をお迎えして、平成２９年度、滋賀県立大学・学位授与式を挙行できますことは、本学にとりまして、誠に大きな慶びであります。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。滋賀県立大学を代表して、心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんが、この良き日を迎えられたのは、皆さん一人一人の努力の賜物であることは勿論ですが、それとともに、皆さんを支えてこられた保護者やご家族、友人の方々の支援があってのことだと思います。保護者、ご家族の皆様を始め、関係の方々には、これまでのご支援に敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

本学は開学以来、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する、人が育つ大学」として、その地歩を固めてまいりました。平成２５年度からは、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（ＣＯＣ事業)」に、また、平成２７年度からは、「地（知）の拠点大学による地方創生事業（ＣＯＣ＋事業)」に取り組んでいます。

これらのいろいろな特徴ある取り組みと本学の基本的な考え方のもと、所定の期間、大学で過ごされ、滋賀の広大な地域を学びの場とし、琵琶湖やそれを取り巻く地域の自然や滋賀の環境・文化から、フィールドワークや実習、実験を通して、実践的な多くの学びを体験して、自ら成長されたものと確信しています。今、学生生活を振り返ると、夢と希望と不安に胸膨らませて入学し、学生生活での楽しかったことや苦しかったことなどが、走馬灯のように思い出されるのではないでしょうか。それのどれを取っても、皆さんの成長の糧となっています。

卒業生の皆さんは、学ばれた専門領域は違いますが、所定の期間を本学で過ごされました。卒業後、社会へ巣立ちこれまでの学びを実践する方、また、大学院へ進学してさらに専門分野を深める方など、その進路は様々ですが、それぞれの進むこれからの道で、滋賀県立大学での成長を自信として、笑顔が絶えない平和で持続可能な社会の実現に向けて、学んだ力を発揮してください。

皆さんが活躍される将来の社会は、いろいろな大きな変化が予想されています。その一つに、アメリカの未来学者であり人工知能の世界的権威であるレイモンド・カーツワイル博士が提唱している「シンギュラリティ」があります。これは、技術的特異点を意味して、現在活発に研究開発されている人工知能が発達して、コンピューターが人間の脳、即ち、人間の知性を超えることを指しています。そして、その結果、人間の生活に大きな変化が

起こると予想されています。この技術的特異点に到達するのは２０４５年、今から２７年後と言われています。正に、卒業生の皆さんが社会の第一線で活躍されている時代です。

コンピューターが意識を持ち、機械が人間の脳を超える時代に向かって進んでいる今の時代において、留意すべき大切なことは、正義感と倫理観だと考えます。機械は人類の平和と幸せを実現するための手段であり、目的ではありません。これらのことを念頭に、正義感と倫理観について、十分考えていく必要があります。

パーソナルコンピューターの父と呼ばれるアメリカのアラン・ケイ博士は、「Future is not to predict, but to invent.」と言っています。この言葉を私なりに解釈すると、「未来は占うものではなく、みずから作り出すものだ」と思います。皆さんが未来に向かって歩まれるこれからの時代に、多岐に渡る多くの課題と出会うことでしょう。その時、時代に流されることなく、自ら時代を作ることを心がけるように期待しています。これまでの滋賀県立大学での学びをベースとして、これからも研鑽を積んで、切磋琢磨することにより、知恵と勇気を持って将来の社会に向かって進んで頂きたいと思います。これまでの学生生活で獲得した実践する力を大いに発揮してください。

滋賀県立大学で、自ら獲得した力を信じて、卒業後も学び続けることにより、昨日の自分より今日の自分が成長していることを実感し、自信を持ってこれからの人生を歩んでください。しかし、これからの人生の歩みの中で、行く手を阻まれたり、立ち止まったりしなければならない時もあるでしょう。そのような時には、是非、皆さんの母校である滋賀県立大学へお出でください。大学はいつでも皆さんをお待ちしています。

皆さんのご卒業とこれからの前途を祝して、式辞といたします。

平成３０年３月２１日

滋賀県立大学　学長　廣川　能嗣